

「巣立ち」

三重県 西川美帆

我が家に初めてツバメがやってきたのは今年の4月だった。ツバメの巣がある所は、縁起がいいとか、家を守ってくれるとかいう言い伝えを聞いた事があったので、なんだか嬉しい気持ちになった。ツバメが野鳥でありながら人家に巣を作るのは、カラスやネコ、ヘビなどの外敵から身を守るための本能的な発想があるかららしい。まず、玄関の軒下にオスメスのつがいが巣を作り始め、一週間程で完成した、次は、産卵〜卵はオスとメスが交代で暖め、二週間程で五羽のヒナが誕生。やったね、おめでとう。次第にヒナは大きく口ばしを開けてエサを待つようになり、親ツバメは交代で害虫や昆虫をヒナに運びつづけた。親ツバメたちが一生懸命子育てしている姿をそばで見ている、本当にあったかい気持ちになった。無事に成長していってくれますように…と願わずにはいられなかった。ところがある日、思いもよらない出来事が起きた。台風の影響で、ツバメの巣がまるごと落ちてしまったのだ。気がついたのは朝方だった。おそらく、夜中に落ちてずっと雨にさらされていたのか、ヒナたちは水びたしで、ぐったりとしたまま、ピクリともしなかった。もうどうしていいのかわからない。けれど、何とかして助けてあげたい。家族の思いは同じだった。巣のかわりになる入れ物を探して、ヒナたちを入れ、もとの場所に備えつけた。最初、親ツバメは警戒しているのか、少し離れた所から見ているだけだった。お昼になり、気温もあたたかくなってきて、ヒナたちも温まってきたのか、一羽、二羽と口を開けて鳴き出した。その様子を見守っていた親ツバメは、又、ヒナの口にエサを運ぶようになった。翌朝には、五羽のヒナたちみんな元気に口をパクパク開けていた。もう大丈夫だ。それから二週間程して、ヒナたちは一羽、二羽と順番に、まだまだあぶなげな様子で飛び立っていき、最後の一羽も無事巣立っていった。さすがに、ちょっぴり淋しい気持ちになった。

ツバメ達との出会いでツバメの親子の愛を知った。

生命力の強さを目のあたりにし、感動した。

また来年、ツバメ達に逢えますように…。